

サステナビリティ

サ
ス
テ
ナ
ビ
リ
テ
ィ

CSR委員長メッセージ



ESG価値の向上を図り、
より良い社会の実現を目指します。

CSR委員会委員長
取締役
執行役員

松島 訓弘

2015年度の電通グループの連結業績(暦年ベース)は、収益で前年比12.8%アップ、調整後営業利益で20.3%増と、大変好調な数字を残すことができました。しかしながらその将来を見通すと、地政学的、ビジネスモデルの変革など様々なリスクが存在します。またマクロ経済の先行きも相変わらず不透明感があります。

そのような環境下、企業が継続的に成長して企業価値を高めていくには、財務的なパフォーマンスの追求だけでは実現は容易ではありません。日本で2015年6月に適用されたコーポレートガバナンス・コードでは、ステークホルダーとの建設的な対話を通して企業に中長期の成長を図るよう変革を促しています。中でもESG(環境、社会、ガバナンス)の視点を重要視し、非財務分野での企業価値創造を求めています。また国内外の機関投資家も自らの投資プロセスにESGへの配慮を求めた責任投資原則(PRI)を重視しており、その署名も既に世界で1,500を超えています。

そうした流れに的確に対応すべく、電通は2015年12月に2020年をターゲットとした「電通グループ中期CSR計画2020」を策定しました。そこでは環境保全、コミュニティ、サプライチェーン、責任あるマーケティング・コミュニケーションの4つを重点領域として定めて、ESG視点での企業価値の向上を目指しています。

企業は社会の「公器」であり、さまざまなステークホルダーと実のある協業がなくては持続的な成長は不可能です。事業活動を通して私たちのクライアントがステークホルダーとより良い関係を築けるよう、責任あるマーケティング・コミュニケーションサービスを提供すること。ビジネスパートナーであるサプライチェーンの皆さんとも協働して、広範なCSR活動を実践していくこと。電通グループの社員には、ワーク・ライフ・バランスの充実を図り、高い志と実行力を持つプロフェッショナルとして行動してもらうこと。

こうした各種の取り組みこそが、財務的な持続可能性の追求とは別に、社会の一員としての企業の持続可能性につながると考えています。今後も電通グループの企業価値拡大のため、事業活動と合わせてESG価値の向上を図り、より良い社会の実現を目指していきます。